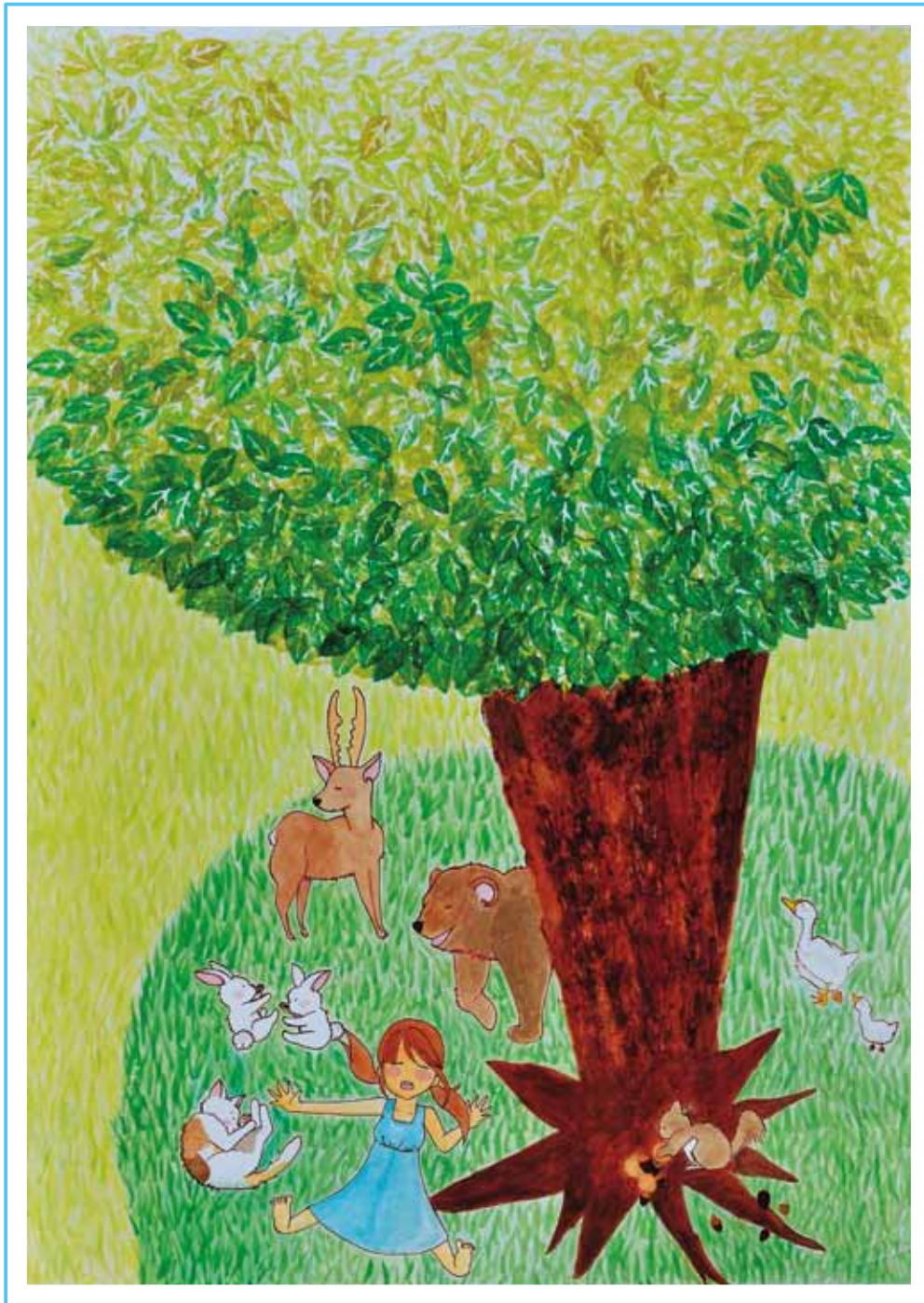




vol. 31

2014.3



公益社団法人 千葉県緑化推進委員会

金柑

柑橘系の中では、皮ごとまるかじりできるのが特徴の金柑。耐寒性が強く、土壌も選ばないので古くから家庭の庭木として親しまれてきています。多く果実が付くことから「子孫繁栄」の意味もあり、見た目にもたわわに実を付けた枝は華やかです。ただし、多くの実を付ける割に木は小さいので、年間通して追肥が重要な作業になります。細い枝が密集しがちなので剪定し、内部まで日が当たるように仕立てましょう。



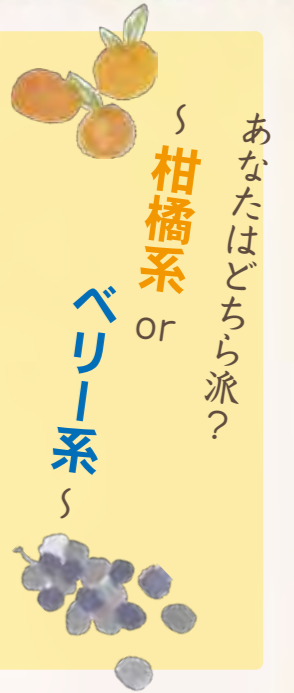
レモン

花の香りもさわやかで、薄紫の花も楽しめるレモン。簡単にたくさんの実がなるので庭に一本あると重宝します。花は四季咲きですが、結実させるのは春から夏の花だけにし、それ以外の時期のものは摘果します。マイナス3度程度までは耐寒性がありますが、北風が当たるような場所は避けた方が無難です。また葉は常緑なので、草花の少ない秋から冬にかけても緑の葉と黄色い実が庭に彩りを添えてくれます。



みかん

鮮やかなオレンジ色の果実を付ける温州みかんは日本の冬の風物詩。たくさんの花を咲かせますが、摘果しないと木に負担がかかり翌年は実の付き方が悪くなる「隔年結果」という状態になるので気を付けます。日当たりと水はけの良いところを選んで植え付け、北風の当たるところは避けましょう。春から夏は水切れを起こさないようにたっぷりと、秋から冬は乾かし気味に管理すると色付きが良くなり、甘い果実になります。



特集

楽しくて おいしい庭を作ろう

～手軽に育てられる果樹～



住宅地の小さな庭、マンションのベランダ。

緑を増やすのは難しいと思われがちですが、諦めないで。

限られた空間だからこそ、育てて収穫できる果樹を植えて楽しみませんか？

身近に果樹があることで、大人はゆったりと季節の移り変わりを味わい、

子どもは自然の恵みの大切さに気付くことができるもの。

そんな木々は、きっと家族のシンボルになります。

花が咲き、実がなる楽しみは、誰でも心が躍るものです。関東で楽しめる手軽な果樹は大きく分けて、レモンやみかんなどの柑橘類と、ブルーベリーやジューンベリーなどのベリー類。ホームセンター等で比較的簡単に苗が手に入るのも魅力。いずれも鉢植えでも育てられるものばかりです。それぞれの特徴を見てみましょう。

どのような木も、植え付け時に用土と肥料をきちんとすること。初心者であれば、あまりに小さいものよりは程よく育った苗木を購入することで、スタートでつまづくことが減ります。また、スペースに合わせて剪定などをしていくことで、楽しく管理が続けられるでしょう。

ただし、果樹は地上部が重くなるため、ベランダなどで管理する場合は台風などの強風時には安全を確保することが必要です。また、人にとっておいしい実は鳥にとっても魅力。野鳥が集まることも考えられますので、ネットなどを掛けて実を守るだけでなく、糞害などご近所などへの配慮も十分行いましょう。

すぐには実がなくても、木が大きくなったり、葉が青々と茂ったりすれば楽しい気持ちになるものです。隔年結果と言って、毎年実がならないということもありますが、焦らず慌てず、長い目でじっくり付き合ってみてはいかがでしょうか。



ブラックベリー

他のベリーに比べて耐暑性が強いので、暑くて他のベリーが難しいという地域でもお勧め。多くはトゲがあるので扱いには注意が必要ですが、気になるようならトゲのない品種もあります。つるが伸びるので、フェンスに這わせたり、ハンギングで垂らしたりするなど、見た目でも楽しめます。酸味の強い果実は、生でも食べられますがジャムなどに加工するとおいしく食べられます。



ジューンベリー

主幹仕立てにしたり、株立ちにしたりと樹形も楽しめるのが特徴のジューンベリー。その名の通り6月頃が収穫期。比較的に雨に濡れると実付きが悪くなるので、鉢植えならば屋根の下に入れると良いでしょう。実は鳥がついばみに来ることが多く「鳥寄せの木」とも呼ばれるほど。バードウォッチングを楽しむのも良いですし、収穫優先ならばネットなどを掛ける工夫をしましょう。



ブルーベリー

ハイブッシュ系とラビットアイ系という2系統がありますが、暖かい関東ではラビットアイ系が良いでしょう。実付きを良くするためには、同系統から2品種を植えるのがポイントです。昆虫等による受粉が望ましいので、高層マンションのベランダなどでは実付きが悪い場合も。酸性土壌に植えることが大切ですが、病虫害にも強く、7~9月頃まで収穫が楽しめます。秋には葉が真っ赤に紅葉するのも楽しみのひとつです。

活躍！みどりの少年団！

～緑を育て、次世代を育てる～

緑化活動を通して、子どもたちの心を育て、緑の大切さを学ぶ……。

大切なのは「緑を愛する気持ち」。

そんな千葉県内には数多くの「みどりの少年団」が結成されています。

「みどりの少年団」とは？

美しい自然や緑は私たちの暮らしを豊かにしてくれる大切なものですが、当たり前そこにあり、無限に広がるものではありません。これらを守り、育てていくことは、大きな課題であり、長い目で取り組んでいかなければならないこと。この重要さを次世代に伝えていく事業のひとつが「みどりの少年団」です。

「みどりの少年団」は、自然に親しみ、さまざまな活動を通じて、

- 健康で心豊かな人間性
- 集団活動による責任と協力

などを培うのが目的であり、地域との交流も含め、明るい社会人に育つことを願って全国で結成されており、その団員数は、約33万人（平成25年1月現在）に上ります。その多くは学校型で、学校をベースに地域との連携を取りながら、緑化活動やまちの美化活動などに取り組んでいる少年団も多数あります。

千葉県には現在61団（平成26年3月現在）が結成されており、毎年夏休み中には夷隅郡大多喜町の県立大多喜県民の森を会場に、千葉県みどりの少年団交流集會を開催しています。体験林業や木工、キャンプファイヤーや自炊活動など行い、少年団同士の親睦も深めています。また、日頃の活動内容の発表会も行い、お互いの情報や意見の交換なども活発に行われています。



▲ 交流集會の様子（体験林業）



▲ 活動発表会

瑞穂みどりの少年団 ～内閣総理大臣表彰～

千葉瑞穂みどりの少年団は、大賀ハスで知られる花見川区東京大学緑地植物実験所に隣接する新興住宅地、瑞穂小学校地域の少年団。まちの緑化だけでなく、ハス池の周辺清掃を行ったり、草取りをお手伝いしたりと、活発な地域活動を行っています。

こうした活動は13年を迎え、平成25年に緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受けました。

みどりの少年団の活動は、次の世代の子どもたちへと受け継ぎ、



▲ 受賞を森田知事に報告

長く続けていくことが大変重要です。同団は表彰を誇りに、さらなる活動を行っています。

「みどりの少年団を 結成しよう！」

みどりの少年団には

- 学校型
- 地域型
- 市町村型

の3つがあり、その多くは学校型です。

結成することにより、毎年度、活動助成金が受けられ、苗木や活動用教材、その他関連事業情報などの提供を受けられます。継続的な活動を行うことが条件となり、事前に当緑化推進委員会および市町村担当部局との協議、調整が必要になります。

あの日から3年 ～東日本大震災からの復興～

各地に甚大な被害をもたらした東日本大震災。千葉県も津波や液状化などさまざまな被害を受け、目を覆うような光景が広がったことは、昨日のこのように思い出されます。

海岸に続く保安林もまた、その姿を一変させてしまいましたが、今、皆の手で緑を取り戻そうという活動が繰り返されています。あの日を忘れないためにも、自然の脅威と恵みを知るためにも、緑化推進委員会では継続して取り組みを行っています。



▲ 震災直後、津波になぎ倒された海岸林のマツ

海岸沿いの被害

千葉県全域にさまざまな被害が出た3.11の地震。浦安や我孫子地域の液状化や九十九里海岸を襲った7.6mにも達する津波で、多くの犠牲が払われました。

中でも従来から整備されてきた海岸の保安林は、その多くが押し流され、強い引き波によって姿を失いました。しかし、この保安林が津波の勢いを軽減させたというデータもあり、その存在意義も見直されています。この海岸の保安林の再生は、海に囲まれた千葉県にとっては大きな課題であると言っても良いでしょう。

復興プロジェクト

緑化推進委員会としても、さまざまな角度から取り組みを進めています。



▲ 浦安市高洲海浜公園「うらやす絆の森植樹祭」

日頃から多くの方のご協力をいただいている「緑の募金」では、被災

地域の森林復旧支援を行っています。その一つとして、千葉県では液状化被害地（浦安市）を緑化したり、九十九里海岸・海岸林に植樹（旭市、山武市、白子町）したりしています。

また、被災した海岸林などをフィールドとして森林づくりに関する研修会（実践作業を含む）を実施し、森林ボランティアの育成と被災したみどりの再生を一体的に図る「県民参加によるみどりの再生事業」を行っています。

委員会の森はみんなの森 ～吉崎浜～

緑化分野における震災復興プロジェクトが進められる中で、緑化推進委員会では平成25年に匝瑳市吉崎浜の県有海岸保安林と「法人の森」協定を締結し、「緑化推進委員会（緑の募金）の森」と名付けました。

緑の募金や森づくりの作業参加を通して、誰もが海岸林の森林復旧活動に気軽に参加いただける場として、そして震災復興のシンボリックなフィールドとして位置付けています。

県民参加によるみどりの再生事業の主フィールドとして森林復旧を進めていますが、25年4月に実施した復興植樹祭では、地元市民や企業・団体、森林林業関係者など多方面から参加者が集まり、復興への祈りを込めて2,220本の苗木が植えられました。そして8月の下刈り、26年3月の補植にも多くの方が参加。今後も企業の森づくり参加など、個別の参加にも応じながら、ここ吉崎浜の森づくりを進めて参りますので、ご関心の際にはお気軽にお問い合わせください。

みんなの力を合わせて！



▲ 植樹祭



▲ 静砂塚をつくる

今回の学校は

キレイな環境がココロをすくすくと育てる
—市川市立富美浜小学校—

地域と保護者の協力で実現

「ガーデニング・シティ・いちかわ」の名称でまちの緑化や美化を推進している市川市。江戸川や東京湾に囲まれ、浦安市に隣接する住宅街の中にある富美浜小学校は、市川市が主催する「ガーデニングコンテスト2012春・学校花壇部門」で大賞を、「まちなかガーデニングフェスタ2012秋」では協力賞を受賞した花の溢れる小学校です。四季折々の草花は定期的な手入れが必要となるものですが、富美浜小学校では主にボランティアの皆さんがその役割を担い、常に美しい景観を保つ努力をしています。地域住民と児童の保護者からなる花ボランティアは登録数60~70名。月に一度の活動では毎回20~30名が参加しています。また正式な活動日以外でも、有志による手入れが行われるなど、マイペースに活動を行っているのが特徴です。

「頑張りが過ぎて続かなくなることは避けたいので、それぞれが負担にならない程度の活動を細く長く続けていきたいと思っています。そうすることで児童にも「植物を大切に、環境を整える心」が伝わるのではないのでしょうか」とは校長の杉山由美子先生。先生方が異動になっても、自然に続いていくような活動を目指しているとのこと。



花の溢れる明るい学校!

体験学習にも生かして

日頃から雑草取りや水遣りなどの手入れを行っている児童ですが、各学年に応じて授業にも活動は取り入れられています。1~2年生は生活科、2~3年生は理科、5~6年生は総合学習や委員会などで植物に触れる機会を増やしており、球根や種を採取して再び咲かせたり、種殻などを堆肥にして無駄なく活用することを学んだりしています。花ボランティアの皆さんにこうした指導をお願いすることで、地域の方々とのつながりも深まり「心の成長」や「地域コミュニケーション」にも一役買っているのだとか。

「美しい環境が心を育てる」という先生方と地域の気持ち、花の溢れる明るい学校を作り、心豊かな地域性を生み出しています。

オススメします。この本 a bookshelf

「イーハトーブ・ガーデン —宮沢賢治が愛した樹木や草花」



文・写真/赤田秀子
コールサック社
1,500円+税

賢治の作品は「文学と博物誌との壮大なコラボレーション」。実際の植物に接して、彼の「自然科学的な生態を踏まえた描写」に納得、感動する、という。約50種の植物の写真に、それが登場する賢治作品の一節と、深い造詣に裏付けられた著者の解説が付く。宮沢賢治研究家でカメラマンの著者は、市川市在住。



「毎日の散歩が楽しくなる! 大人の樹木学」

著者/石井誠治
洋泉社 1,000円+税

「人類の歴史を意識する時、樹木の発する情報がわかると面白い」。身近な存在なのに知られていない木の生き方を知ることが、自然を見つめ直すきっかけになれば、と著者は願う。樹木医、森林インストラクターである著者が人気の野外講座で語る、面白い木の話をもとめたのが本書。樹木に関するうんちくを全国の名木解説も。

今回ご紹介した2冊のいずれかを各1名様にプレゼントします。ハガキに、ご希望の書名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(公社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係にご応募ください。また、本誌をご覧になった場所、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページ下、締め切りは7月末日(当日消印有効)です。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



企業とみどり
~緑を愛する元気な企業~

JFEスチール東日本製鉄所 JFEちばの森

こだわりの 遺伝子レベルまで

蘇我スポーツ公園の隣、京葉工業地帯の真ん中にあるJFEスチール東日本製鉄所。東京ドーム164個分の広大な敷地に、房総の自然そのままをイメージした人工の緑地帯があります。

房総の自然をぎゅっと再現

房総の海岸を忠実に再現したいと、海側にはタブノキを中心にヤブニッケイやハゼノキを、風の影響を受けやすい頂上付近にはクロマツにエノキとオオシマザクラなどを組み合わせています。内陸側は房総の雑木林をイメージ。ケヤキ、ムクノキ、ヤマモモやムクロジなどを植え込みました。

水まきは、100m間隔で埋め込まれた散水機が自動で行います。また、苗木を守るため、乾燥に強いマツを間に植えて苗木を保護。無事に育ったらマツを伐採するなど、郷土に芽吹く小さな命を大切に育てています。 こだわりの土にも。盛り土の基礎部分には、鉄を作る際に出る不要な鉄鉱石を再利用。その上に県内の山土を1m50cmかぶせ、さらに50cmの高さで植栽用の土を敷いています。間伐した木材も無駄にせずチップ状に。それらを敷き詰めることで、草が生えず、メンテナンスの手間も省けます。

「将来的には、『ちばの森』として市民の方にも楽しんでもらえるような森にしたいです」と、勝田さん。

房総の自然が、ぎゅっと詰まった「JFEちばの森」。なだらかな丘陵は、隅々まで郷土への愛が溢れていました。現在、フクダ電子アリーナから見ることもできます。

DATA

JFEスチール株式会社 東日本製鉄所(千葉地区)

1951年、国内初の鉄鉱石から鋼材生産までを一貫して行う臨海製鉄所として創業。首都圏を代表する製鉄所となり最先端の技術で最高級の鉄鋼製品を生産している。構内緑化に力を注ぎ、緑化面積の拡大を目指している。



1 「JFEちばの森」入口前の案内看板 2 階段状に植栽された樹木 3 森の頂上部

森の名手・名人

(公社)国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくに・にっぽん」運動。森林を守り育て、その恵みを生かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人100人」を選定。今年度、千葉県では1名が名手・名人に選ばれました。

鈴木 士朗さん(富津市・88歳) <森の伝承・文化部門>

千葉県富津市金谷地区において石問屋の後継者として積んできた、手彫りと機械彫りのキャリアは約40年。歴史ある房州石の生産に関わってきた証人です。

小学校で、「まちの先生」として石に関する授業を行った、歴史の生き証人として、生涯学習やシンポジウムの講師を務めています。



中央が鈴木さん 「第12回聞き書き甲子園フォーラム」での鈴木さん

緑の募金は東日本大震災被災地域の 緑化・森林整備等を支援します

春季・緑の募金にご協力ください

平成26年度 緑の募金運動
目標額 3,500万円



3月1日から5月31日まで県内全域

で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は当委員会、各市町村窓口、募金箱設置にご協力の企業・団体の事業所等でも受け付けています。

緑の募金では従前の各種緑化事業に加え、全国一丸となり、東日本大震災被災地域の緑化・森林整備等を支援しています。25年度には旭市、山武市、白子町の海岸林の植樹事業や浦安市の緑の防波堤整備事業を実施しています。県民の皆様のご理解と温かいご支援をお願いいたします。

平成25年度の募金総額は34,472,383円に達しました。お寄せいただいた募金は、学校や公園といった公共施設の緑化や緑の少年団に代表される森林環境学習、また森林ボランティア活動の支援などに大きく役立てられました。また、その一部は世界規模での緑化や森林の整備にも役立てられています。



平成25年度 公共施設等の 環境緑化事業を実施しました

(公社)ゴルフ緑化促進会並びに県内協力ゴルフ場のご協力のもと、プレイヤーによる緑化協力金を原資に、市町村から希望が寄せられた下記6カ所の公共施設などに植樹を行いました。



なるとうこども園 (山武市)

| 市町村 | 場所 | 樹種・本数 |
|-----|----------------|--|
| 市川市 | 市道3202号 | ヒラドツツジ68本 |
| 船橋市 | 都市計画道路3・4・27号線 | ヒラドツツジ93本 |
| 柏市 | 松葉第一近隣公園 | オオムラサキツツジ100本 リュウノヒゲ3,000株 ハナミズキ4本、ドウダンツツジ21本 コクチナシ50本、リュウキュウツツジ30本 セイヨウベニカナメモチ60本 |
| 流山市 | 流山市南部柔道場 | ヒトツバダゴ1本、マテバシイ1本 カシワ1本 |
| 多古町 | 多古こども園 | アラカシ3本、ケヤキ2本、ハナミズキ1本 ヤマモモ1本、マテバシイ2本、カシワ1本 |
| 山武市 | なるとうこども園 | |

国土緑化運動ポスター原画コンクール 入賞作品展示会のお知らせ

平成25年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品展示会を下記のとおり実施します。11,193点の応募のなかから選ばれた素晴らしい作品の数々です。次代を担う子ども達の緑や自然に対する思いやメッセージをぜひご覧ください。

当コンクールは平成26年度も実施します。たくさんのご応募をお待ちしております。

| 期間 | 場所 | 展示作品 |
|---------------------|--|--------------------|
| 4/15(火)~ 4/22(火) | 千葉市中央区市場町1-1 「千葉県庁19階県民展示コーナー」 ※土、日曜日は除く | 特別賞、特選の計36点 |
| 4/25(金)~ 5/8(木) | 八千代市大和田287 「千葉信用金庫 大和田支店」 ※休業日は除く | 特別賞、協賛賞の計15点 |
| 5/13(火)~ 5/21(水) | 八街市中央9-11 「千葉信用金庫 八街中央支店」 ※休業日は除く | 特別賞、協賛賞の計15点 |
| 5/27(火)~ 6/2(月) | 千葉市中央区新町1000 「そごう千葉店 地階ギャラリー」 ※最終日は16:00まで | 特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点 |
| 6/10(火)~ 6/22(日) | 印西市原山1-12-1 「県立北総花の丘公園 花と緑の文化館内」 ※休館日は除く | 特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点 |
| 6/30(月)~ 7/14(月) | 柏市柏の葉4-1 「県立柏の葉公園 公園センター内」 | 特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点 |
| 8/5(火)~ 8/31(日) | 千葉市中央区青場町977-1 「県立青葉の森公園 公園センター内」 | 特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点 |
| 9/2(火)~ 9/30(火) | 千葉市稲毛区天台6-5-2 「千葉県青少年女性会館」 ※休館日は除く | 特別賞、特選、協賛賞の計39点 |

※会場等都合により展示期間等が変更になる場合もございますので、最新の情報は当委員会ホームページでご確認ください。

表紙の絵

表紙の作品は平成25年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、中学校の部、千葉日報社賞を受賞した、秦花菜さん(中2)の作品です。



2014年3月発行
発行 / (公社) 千葉県緑化推進委員会
URL <http://www.c-green.or.jp/>
〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148
TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522
印刷 / 凸版印刷(株) TEL.043-350-5611

※この広報誌は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。